

胡錦濤政権から習近平政権へ

- * 習近平政権期の変化
- 1) 南シナ海の岩礁・暗礁の埋め立て ▶ 強硬政策の象徴
 - 「韜光養晦」は一切使用せず。
- 2) 大国間外交: 協調路線。オバマ政権との新型大国間関係提案。
- 3) 周辺外交 ▶ 一帯一路へと昇華。対外投資と周辺外交の組み合わせ。
 - アジア安全保障観などの新たなアジア観
 - AIIBなどの国際公共財の提供。
- 4) 国際秩序形成: 建設的な関与？

習近平と世界秩序

- 世界秩序／地域秩序
 - ▶グローバルには強調、地域では強硬関係(胡錦濤政権後半期)
 - ▶中国に有利な秩序／調整すべき秩序／反対・無視すべき秩序
- 習近平政権になってから
 - ▶地域秩序に対する強硬さは継続、ただし「アジアを語り」、公共財提供
 - ▶東アジアよりも広い空間への影響力

習近平政権と世界秩序

- 2016年7月、習近平はライス大統領補佐官と北京で会見
- → 既存の世界秩序には挑戦しないと明言

- 2016年7月、傅瑩・全国人民代表大会外事委員会主任委員
- → アメリカを中心とする既存の国際秩序には三つの要素
- そのうち、中国が受け入れられるのはひとつだけ
- 「国連とその下部組織による秩序」

2. 一帯一路

- シルクロード経済ベルト+21世紀海上シルクロード(2013年末～)
- 1) 一帯一路建設工作領導小組
 - 張高麗副首相、王滬寧中央政策研究室主任、汪洋副総理、楊晶国務委員、
 - 楊潔篪国務委員
- 2) 2015年に組織化、ただし全体像は不分明。
- 3) 2016年は対外宣伝は静か。しかし、「事業」は展開。
- 4) 2017年5月にForum開催。

一帯一路

- 性格
- 1)当初は、これまでの周辺外交の組み合わせ＋投資事業のリスト化という認識
- 国際組織にするのか否かも不分明。ロシアの牽制という要因も。
- 2)しかし、コネクティヴィティの強化、投資、交流、科学技術協力、衛星ネットに基づく情報提供などの包括的な地域枠組みに発展していく可能性。メンバーシップは柔軟。
- 3)他方、海のシルクロードについては港湾建設が進められ、軍隊の広域展開のためのインフラという性格大。